

家具は倒れず

役立った転倒防止グッズ

東松島市 70代 女性

ご飯をよそって出して、みそ汁を持ってこようと思って立ち上がったときに「ドン」と来たんですね。アッと思って、とっさに私は食器棚を押さえ、お父さんがあっちから、テレビを押さえました。

食器棚は、観音扉*を少し太めのゴムでとめていました。そのゴムが伸びて、中のものが少し飛び出しましたが、たいしたことはありませんでした。

それから、今度は仏壇の花が心配になって走っていったのですが、ふっと庭を見ると、道路に面したうちの岩塀が倒れていました。

たんすとか本棚とかは全部、前々からゴムみたいな転倒防止用のやつを買って、下に入れてあったんです。だからぜんぜん倒れなくて、助かりました。

*観音扉とは、中央から左右に広がって開く形式の扉のこと。



そんなところで寝ていちゃ、ダメ

家具の配置に要注意

柏崎市 20代 男性

前の日の夜が仕事で遅くて、その時間までまだ寝ていたんです。最初軽く揺れ出して、「あ、また地震だな。まあ、いつものことだから」と思って、そんなに慌てもしなかったんですけど、すぐにクレーン車か何かが突っ込んで来たんじゃないかと思うほどの揺れになりました。

で、あわてて、パジャマのまま、2階の部屋の窓から1階の屋根の上に飛び出たんです。「上から2階の屋根のかわらが落ちてきたりして、かえって危ないよ」とあとで人に言われたんですけど、その時は夢中でした。

私が寝ていた場所というのは、頭のほうにテレビが置いてあって、足元には冷蔵庫が置いてありました。やっと揺れがおさまって、振り返って自分の部屋の中を見たら、テレビと冷蔵庫が自分の寝ていた場所にドン、ドンと転がっていたのです。

それを見て、「逃げてよかったな」と思うと同時に、「そんなところで寝ていちゃいけないな」と思いました。



お嫁に来てから初めての体験

ご近所の方の連絡で気づく

杉並区 40代 女性

私の家は、川に一番近い通りに面しています。近くには橋があって、ちょうど土地が低くなっているところです。

主人の母なんかは過去に1回あったかなと申しておりますが、私がお嫁に来てからもう何十年になりますが、水害の経験は一切ありませんでした。だから、すごい雨だなと思ってはいても、あそこの川があふれるという認識はまったくなかったんです。

しばらくして、川側にあるお向かいさんから、「今、川があふれて、うちの裏にも水が来ている。どうしよう」という電話がありました。私がずっと学校の役員などをしているので、気をきかせて電話をかけてきてくれたんだと思います。

「えっ？」と初めてそこで窓を開けてみたら、橋の上に水がわんわん来ていたんです。「これはうちもやばいじゃん」と、傘もささずに着のみ着のままで外に飛び出してみると、我が家のガレージにも水が入っていました。

それにしても、私はたまたま学校の役員をしてて、知らせてくれる人もたくさんいたので、早めに気づけたんですけれども、そうでなかったら大変なことになっていたかもしれません。



しなかった台風前の畳上げ

～ポンプ場でき、備えおこたる～

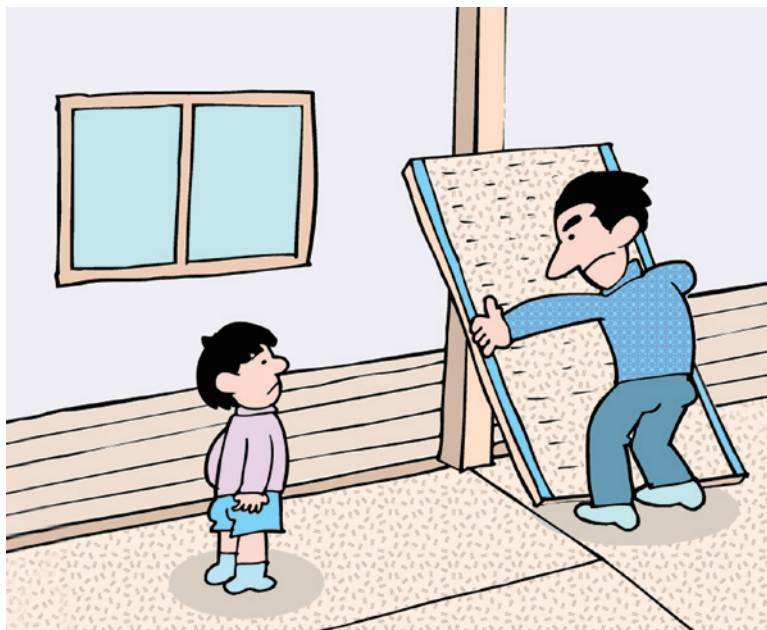
（宮崎市 60代 男性）

我々は子どものころから、台風がきたら何をしなくちゃいけないかというのは、分かっていたんです。この土地はまわりに比べて低いから、「雨が降ったら大変だな」という思いは、自然と体の中にしみついていました。

昔は、農業をしている家は、だいたいが食料の米や麦などを床下に置いていて、どこの家も台風がくるとなったら、そういうものを家の中に移動して、畳はぬれないように柱に立てかける、いわば「畳上げ」をしたものです。そういう準備に必要な角材や丈夫なヒモなどは、私の家にもありました。

けれども、10年ぐらい前に、ここに雨水ポンプ場という排水施設ができてからは、「もう水は上がらないよ」という雰囲気になっていたんです。ところが今回は、「未曾有*の雨」だから、どうにもならなかったんですね。私も、水が出そうかなんて、いっさい気にしていませんでした。ちょっと油断があったのかなと反省しています。

*未曾有(みぞう)とは、昔から今までに、まだ一度もないこと。



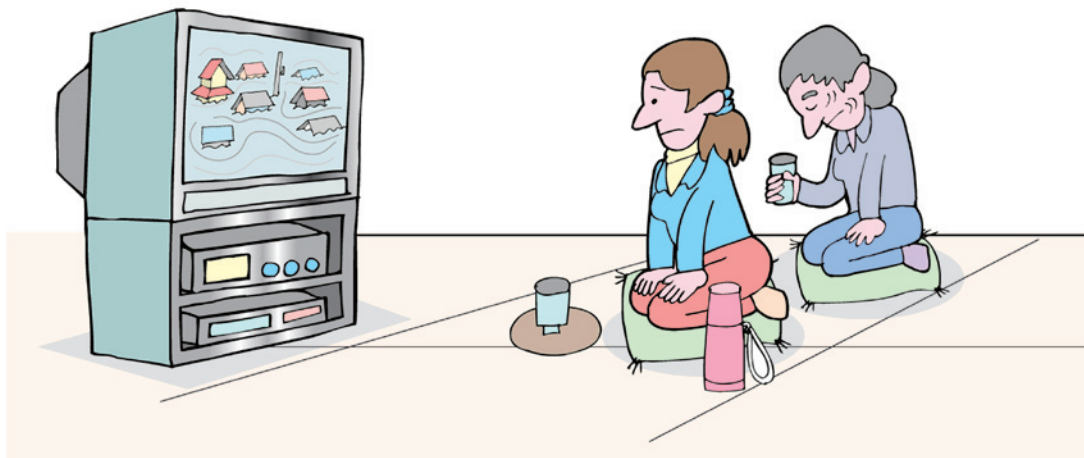
避難所のテレビで発見、泥水に浸かるわが家

（宮崎市 20代 女性）

私が住んでいたところは、今まで水に浸かったことがなかったので、水害に遭うということを全く想定していませんでした。朝の5時ごろに消防団の人たちが「避難してください」と言って回っていることに家族が気づいて、家族全員、布団から出て服を着替えて、すぐに避難を始めました。

避難所になっている小学校に行く途中では、橋を渡らなければなりませんでした。うちは足腰の悪いおばあちゃんを連れていたので、傘もさせないようなすごい雨風の中を逃げること自体、怖かったです。

私はおばあちゃんが一緒だったので、小学校の畳の部屋で過ごさせてもらっていたのですが、その部屋のテレビでニュースを見ていると、川が氾濫して、あたり一面、海のようになった町のように流れました。その中に自分の家を見つけたときには、ショックで言葉もありませんでした。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

ー簡単な手順を紹介しますー

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ



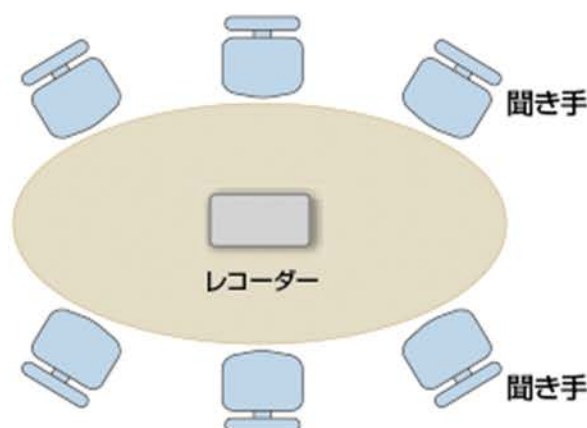
その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける



みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間



なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける



テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする

※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集
※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的



作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

